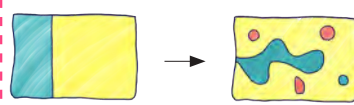


ハナマキ・ナレッジ・ commons

「多様な境界面」と「地続きな立体街路」によって「市民ライブラリアン」が次々に息吹く、「生きた知」の複合拠点となる図書館を提案します。必要なのは、各機能がいかに出会い直すことができるか、その調整としての設計です。

●境界面を増やすゾーニング



コンパクトに分けられた運営・利用部門との間には最低限の境界面だけがあります。運営部門内のまとまりは維持しながらも、形状を解き、引き延ばすことで、境界面の種類を増やしていきます。多様な境界面は、運営・利用者の二者間にあわいを生み、新たな関係性のきっかけとなります。

●様々なコモンズが生まれるプラン



各分野のユニークな書架閲覧空間が数珠状に連なるとき、交わり、重なる場に「共に知り・考え・見つけ・生み出す」共同体としてのコモンが生まれます。



書架とコモンの連続は立体街路となって、閉架書架や管理スペースに巻きつき、さまざまなコミュニケーションが発生する場=境界面をもたらします。

●市民ライブラリアンと生きた知

コモンと境界面は、利用者と図書館を繋ぐ市民ライブラリアンの活動拠点となり、図書館を能動的な活動の舞台へ書き換えていきます。図書館に長年蓄積された情報は、今を生きる人の生活そのものと結びつき、「生きた知」となって、花巻の街を彩っていきます。



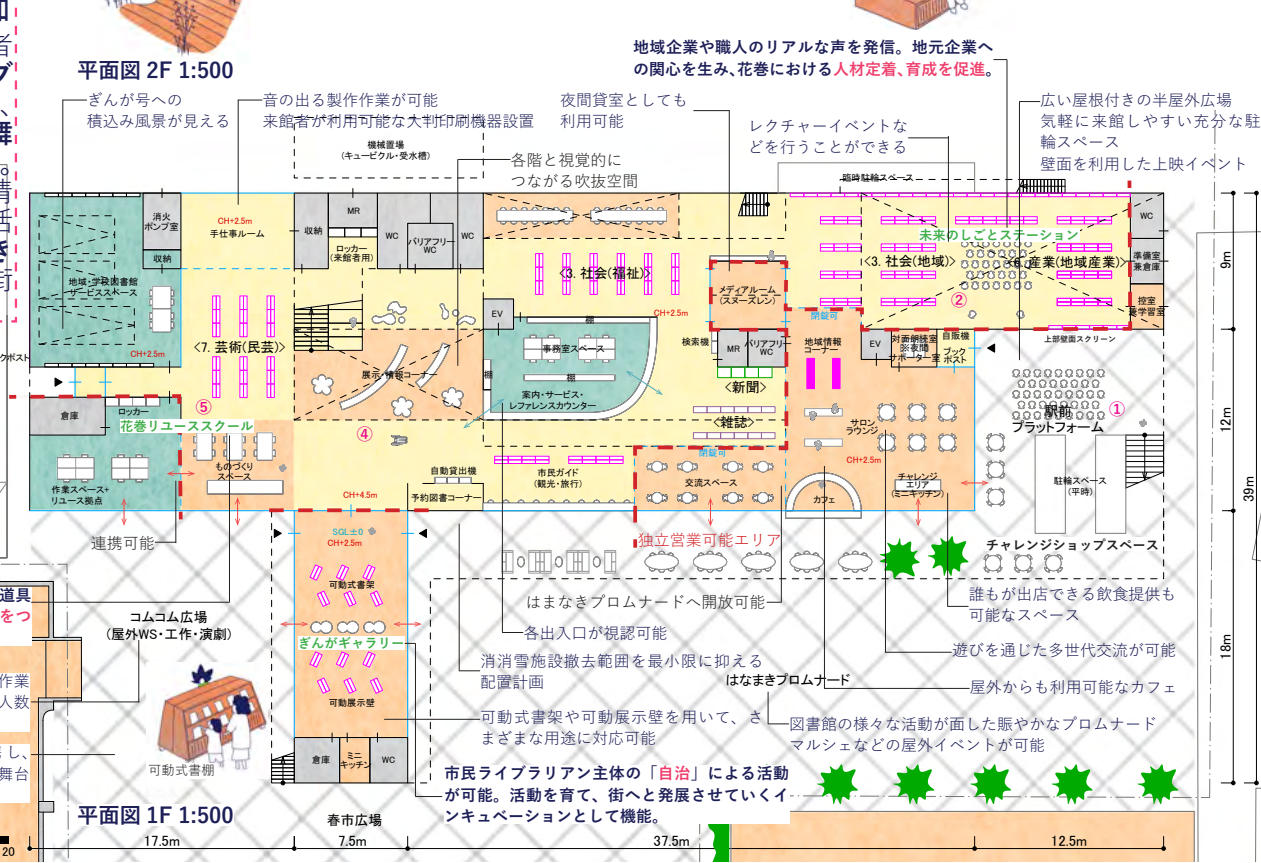
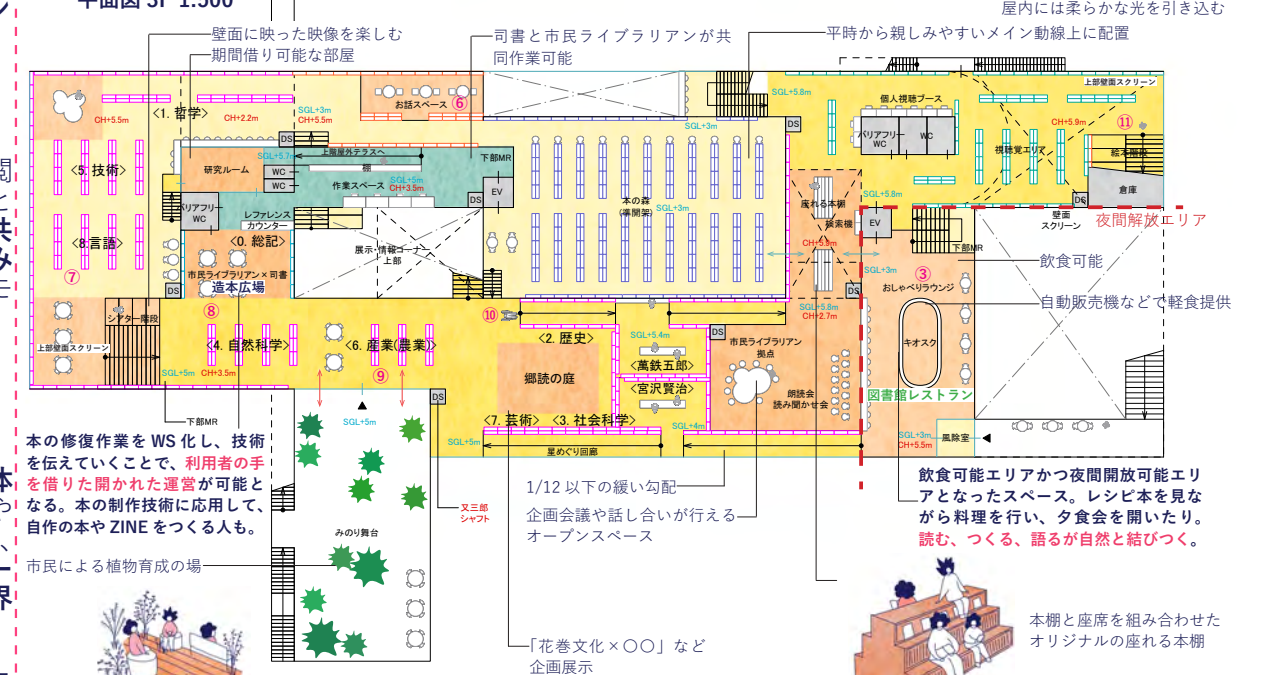
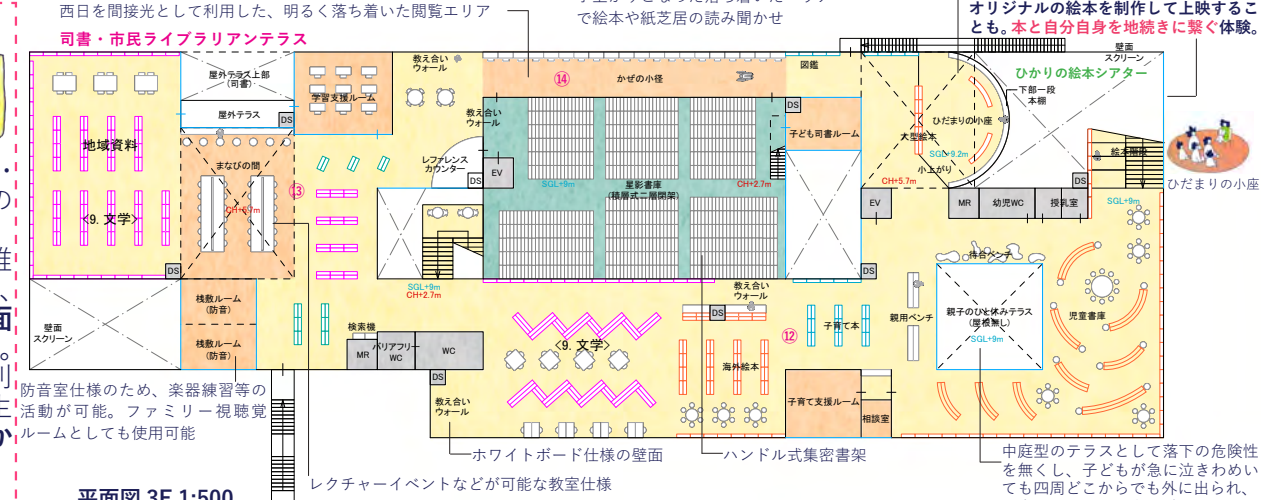
優先駐車場 (34台)

パリアフリー駐車場 3台

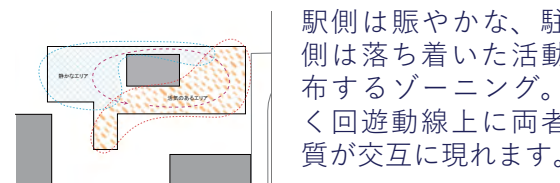
学校や各家庭で使われることなくなった道具や楽器などを回収、貸出を行う。地域資源をつなぐオープンスクール。

ロビー 面積表 評価 (6) テーマ (ア) 延床面積: 4,472 m² 1F: 1,524 m² 2F: 1,473 m² 3F: 1,475 m²

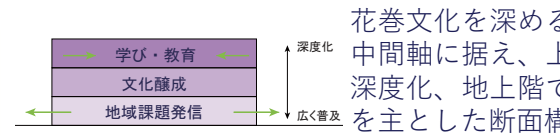
ものづくりスペース、作業スペースと連動した大人数での製作活動が可能 COMZ ホールと連携し、演劇や音楽イベントの舞台にもなる



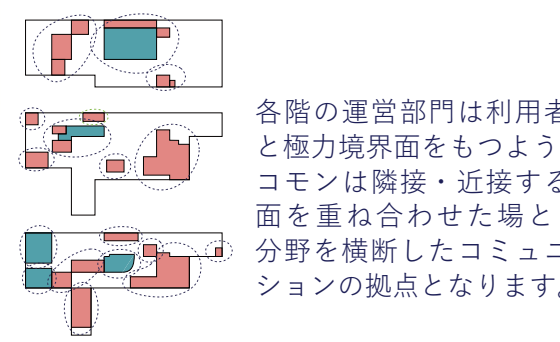
●平面ゾーニング 評価 (1)(2) テーマ (ア)(ウ)



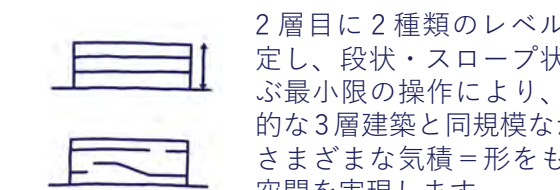
●断面ゾーニング 評価 (1)(2) テーマ (ア)(ウ)



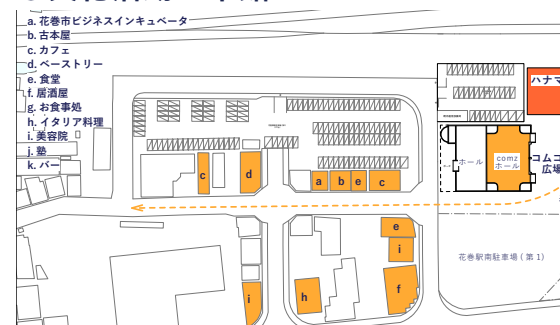
●活動ゾーニング 評価 (1)(2) テーマ (ア)(ウ)



●最低限の操作 評価 (1)(3) テーマ (ウ)



●文化活動の本館として 評 (1) テーマ (ア)

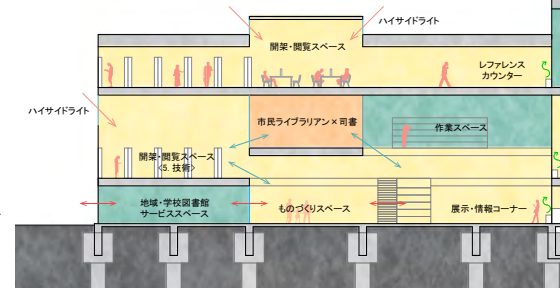


●構造・設備断面計画 評 (2) テーマ (イ)

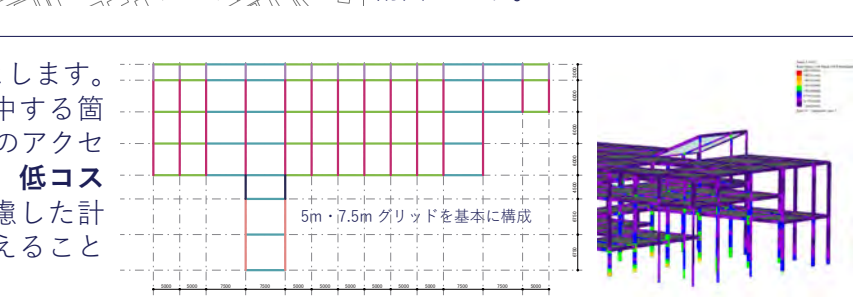
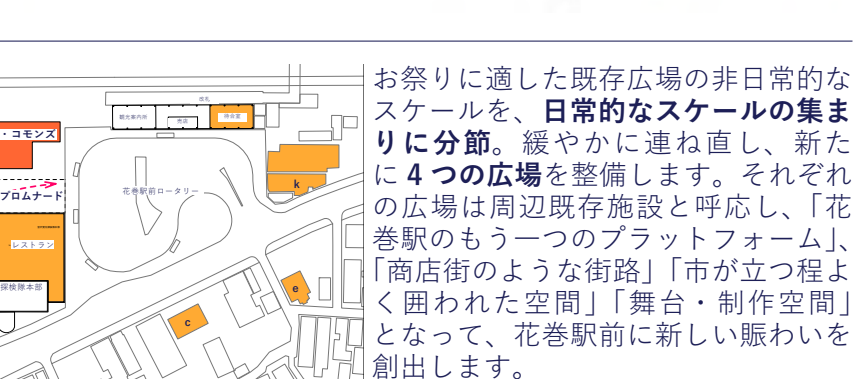
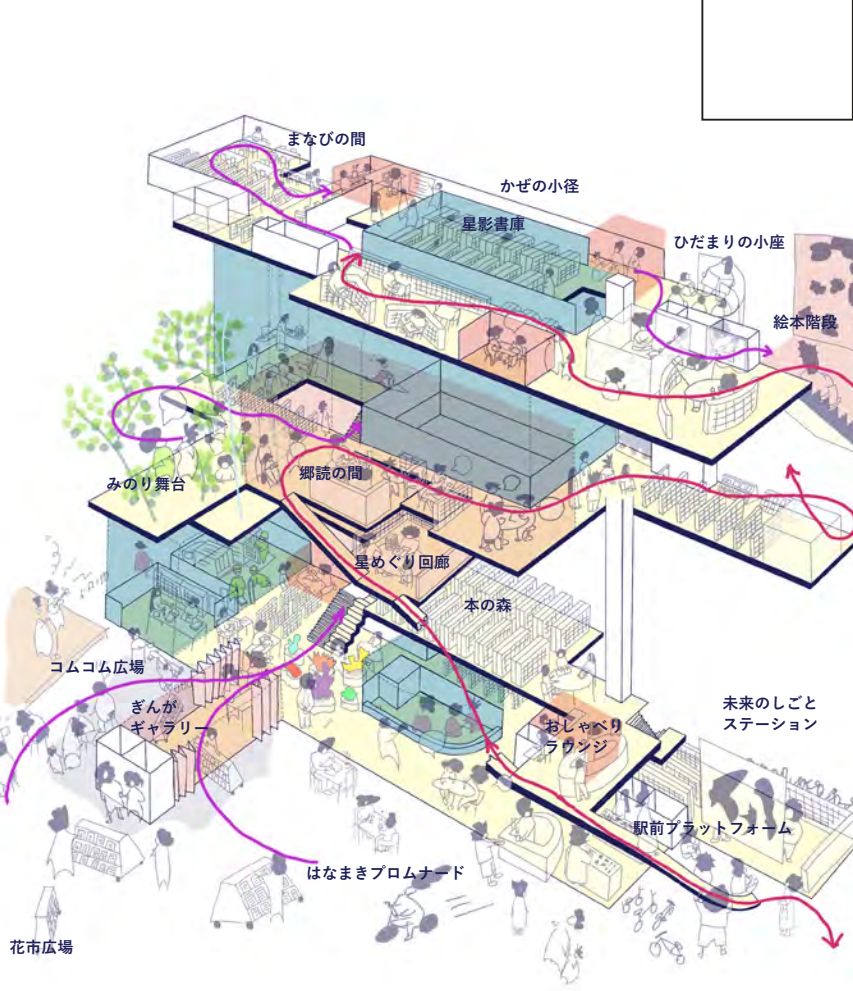
【構造計画】鉄骨造とし、小断面の流通材を前提とします。経済性に優れたスパン割で構成し、重量物が集中する箇所は、5m 程度の短スパンで無理なく支え、空間のアクセントとして活用しながら、全体の鉄骨量を抑え、低コストかつエンボディドカーボンを抑える環境に配慮した計画とします。各メンバーを最小限に、階高を抑えることで距離感を低減し、連続的な空間を実現します。

【設備計画】階高を抑え、各空間の気積をコンパクトにします。視線の抜けを確保しながらも、吹抜空間は最小限として、空気に縁を切り、各部の空調負荷を低限します。床置き空調機を基本とし、暖房時は天井と床面付近から室内空気を取り込み、低い位置から吹き出す空調方式とすることで、特に冬季において、上下温度差を抑えます。柱と DS を抱き合わせた又三郎シャフトは各空間からの換気経路であり、壁柱を兼ね架構のメンバーや鉄骨量を抑える役割も果たします。

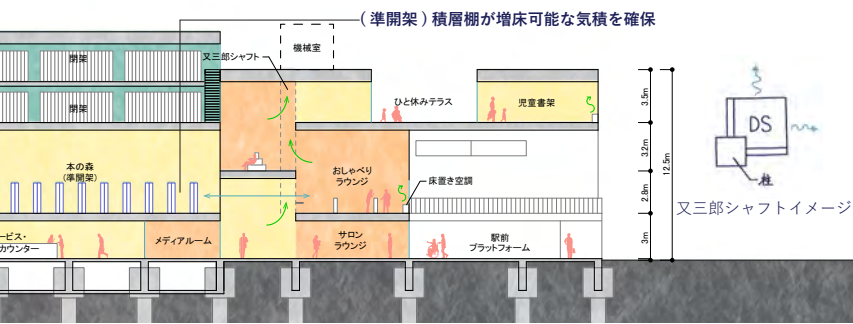
実施設計時、地盤調査をもとに最適な基礎構造を検討



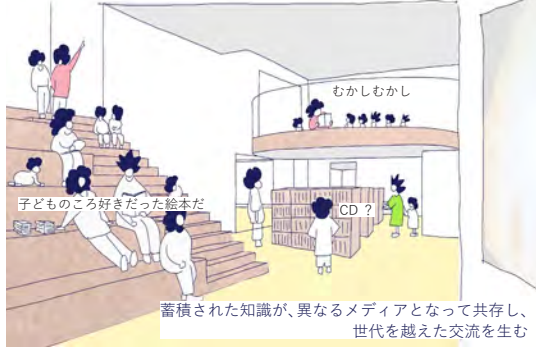
●街と地続きな立体回遊空間



お祭りに適した既存広場の非日常的なスケールを、日常的なスケールの集まりに分節。緩やかに連ね直し、新たに4つの広場を整備します。それぞれの広場は周辺既存施設と呼応し、「花巻駅のもう一つのプラットフォーム」、「商店街のような街路」「市が立つ程よく囲われた空間」「舞台・制作空間」となって、花巻駅前に新しい賑わいを創出します。



⑪絵本階段×視聴覚書架×読み聞かせ



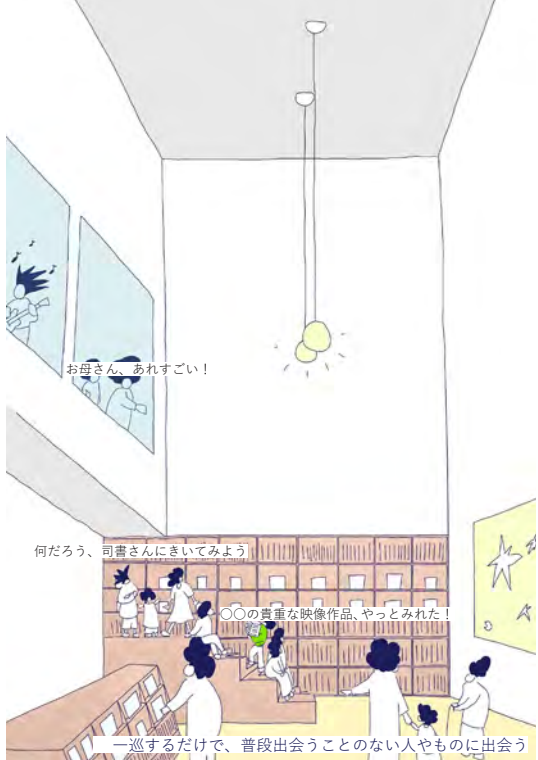
⑩星めぐり回廊×郷読の間×市民ライブラリアン



⑧レファレンスカウンター×市民ライブラリアン×作業スペース



⑦シアター階段×壁面上映×栈敷ルーム×閲覧スペース



⑫親子のひと休みテラス×子育て支援×子ども書架×教え合いウォール

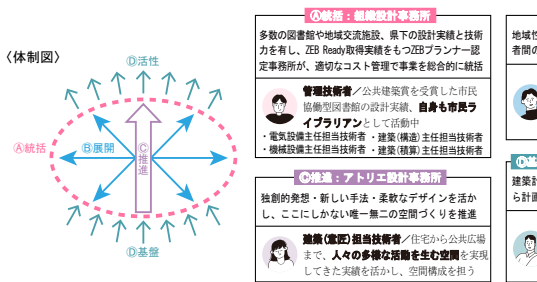


●市民ライブラリアン 評(1) テーマ(ア)



●多様な境界面を内包したチーム体制 評(3) テーマ(イ)

公共図書館の実績を多数有する組織設計事務所統括のもと、空間構成力・地域性を活かす場づくり力を有した建築家と、東北の公立美術館で館長を担う建築計画研究者による協働設計により、多様な境界面を内包した体制とします。



⑨自然科学×みのり舞台×作業スペース×司書・市民ライブラリアンテラス



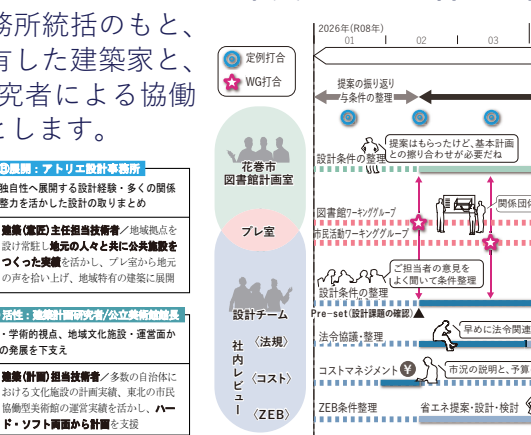
⑬星影書庫×レファレンスカウンター×教え合いウォール・学習支援ルーム×かぜの小径×まなびの間



●花巻の新しい顔 評価(1) テーマ(ア)(ウ)

これからの公共には、サービスの消費者/提供者の枠を超えて、公と民とが手を取りあう「協働」「共営」が必要不可欠となっています。そんな図書館づくりの推進のために、「市民ライブラリアン」を提案します。市民ライブラリアンは、自分自身の興味関心から、**一步だけ図書館のなかに入り込む能動的な人たち**です。図書館は本との出会いの場ですが、これからは、本を選んで誰かに薦めたり、本について話し合ったり、本をみんなでつくったり、さまざまな本と人、人と人のコミュニケーションの場となるでしょう。市民ライブラリアンが主体的に企画・運営に関わり、この図書館を使い倒す活動を展開していきます。さらに、本をきっかけとして、生活を肯定して深化させる花巻ならではの活動へとつながり、図書館の養分を吸収した人たちが、その活動という苗をまちへと拡げていくでしょう。そうして、自分たちの図書館が作り出されていくとともに、これからの花巻を育てていく人たちをつくり出していきます。

●確実なコスト管理と品質管理を実現する設計工程 評(3)



⑤作業スペース×ものづくりスペース×技術書架

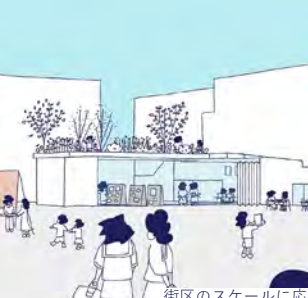


⑭かぜの小径



●花巻の新しい顔 評価(1) テーマ(ア)(ウ)

ロータリーから



コムコム広場



車窓を迎えるコミュニティアート

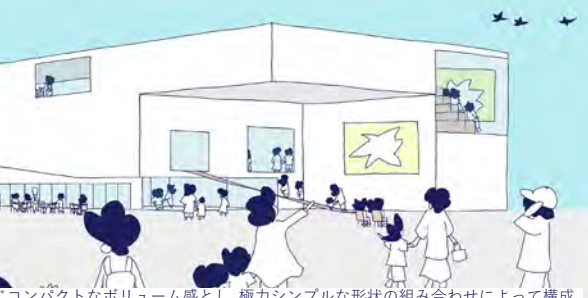


⑮展示情報コーナーを見下ろす

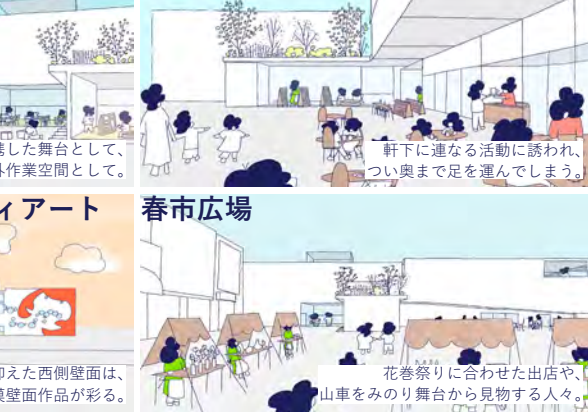


●花巻の新しい顔 評価(1) テーマ(ア)(ウ)

はなまきプロムナード



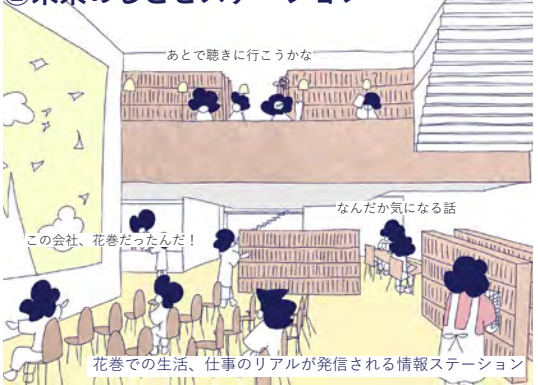
春市広場



③おしゃべりラウンジ×本の森×座れる本棚



②未来のしごとステーション



①駅前プラットフォーム×チャレンジショップ



⑥お話スペース×書架×研究ルーム×司書・市民ライブラリアンテラス

